

信州大学

信州大学農学部附属演習林における2020年のトピック

1. 新型コロナウイルスの感染拡大防止のために、夏期休暇期間に開講を予定していた公開森林実習はすべて受け入れを中止した。学外の研究利用については、6月19日以降に県外利用者の受け入れを行っている。なお、宿泊施設の利用はすべてお断りしている。

2. 前期の授業開始日が5月11日まで順延されたことにより、学生実習による植林が実施不能となった。令和2年の新植は中止し、購入したカラマツ苗木は苗畑に仮植し、翌年の植栽に用いることにした。



3. コロナ禍による経済活動の低迷によって木材価格が大幅に低下することが予想されたことから、令和2年度に予定していた請負間伐の実施を中止した。請負間伐に予定していた予算は、宿泊施設の営繕（屋根補修）に充てることにした。

4. 8月15日に一般登山道より西駒ステーション内に登山者が迷い込み、ヘリコプターにて救助される案件が発生した。伊那市が演習林内への侵入を注意喚起する看板を、一般登山道と演習林作業路との分岐点に設置した。

5. コロナ禍で教育・研究が大幅に制限されたなかではあるが、研究試材やデータの提供、アンケートへの協力等、リモートによる学外の研究利用に協力している。コロナの警戒レベルが一時的に緩和された10月には公開森林実習「農林フィールド基礎演習」を開講し、筑波大学と山形大学から計3名の受講生を受け入れ、感染予防に配慮しながらフィールドでの樹木観察や植生図作成などを実施した。とりわけ西駒演習林での演習が好評で、資源植物の採集・観察の回ではアケビ類やウラボミソウの採取等を満喫することができた。

